

## 名誉会員追悼



故 名誉会員 堀川 一男 氏

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元日本鋼管(株)取締役 技術研究所長 堀川一男氏は、平成24年4月12日、ご逝去されました。享年94歳。ご逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和16年3月東京帝国大学工学部冶金学科を卒業、呉海軍工廠での海軍技術将校(少佐)、運輸省鉄道技術研究所を経て昭和23年日本鋼管(株)に入社されました。爾来技術研究所で、所長室長、副所長、所長を歴任、昭和35年工学博士、47年取締役、51年技監、57年から59年まで常勤社友の各要職を歴任されました。

以上の経歴にみられるように、氏は、一貫して鉄鋼の新技术・新製品の開発研究、技術研究所の管理と強化・拡充並びに国際交流に尽瘁し、わが国鉄鋼技術研究の進歩発展に顕著な貢献をなされました。

具体的には

- (1) 高張力鋼、耐候性鋼等「溶接性低合金構造用鋼」につき基礎研究から開発・利用まで一貫実施し、高い評価を受けています。特に、Si-Mn鋼の研究は高張力鋼がわが国で初めて艦艇・橋梁等の溶接建造に採用された画期的な先駆的業績で、戦後の工業の発展に多大な寄与をなしました。
- (2) 高張力鋼の開発において欠かせない溶接、腐食等の利用技術の重要性をいち早く認識され、同分野の強化・拡充、育成に尽力されました。
- (3) 15年に及ぶ所長室長、副所長、所長の任期中に卓越した識見と指導力により京浜地区研究棟改築、福山研究所、津研究所発足等の研究所の環境整備を進められました。

また、視野の広い有能な研究者を育成するため、外に対しては、早い時期から海外へ留学生を派遣し、内では研究所と他部署との頻繁な人事交流をする日本鋼管独特の社風を強く推進されました。

本会事業の推進については、理事(2期)、常務委員(2期)、評議員(8期)を歴任し、特に豊かな国際感覚をもとに協会主催の国際交流を推進されました。

また、海軍での人脈、大学関係での顔の広さで積極的に協会で活動され、民間から初の編集委員長に就任されました。

以上の功績により本協会から渡辺義介記念賞、香村賞、協会事業功労賞が授与されています。さらに(社)溶接学会副会長、(社)金属表面技術協会副会長、(社)腐食防食協会副会長等の広範な分野の学協会の要職に就任し、日本金属学会功績賞、学振腐食防止賞、溶接学会功績賞、日本材料学会功績賞等も受賞しておられます。

氏が鉄鋼技術と本会の発展に尽くされた多大な業績を偲び、会員一同、心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成24年5月

日本鉄鋼協会 会長 勝山 憲夫